

II 開発教育指導者研修(実践編) 第1回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2015年6月13日(土) 13:00～17:00、14(日) 10:00～15:00
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者40名、JICA9名、NIED6名、合計55名
[2日目] 受講者41名、JICA8名、NIED5名、合計54名
- ◆ ファシリテーター：(特活) N I E D ・ 国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第1回のねらい

★ 開発教育・国際理解教育の目的、内容、方法を体験的に理解する。

- ① 研修の全体像を理解し、各自の参加の目的をふりかえり、共に学び合う仲間同士知り合う。
- ② グローバル化した世界の現状と、開発教育・国際理解教育の必要性を確認・共有する。
- ③ 開発教育・国際理解教育が、価値観を育てる教育であること、行動変容を支える教育であること、そのための参加型の教育であることについての理解を深める。

■ プログラムの内容

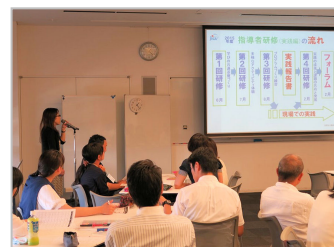
● セッション1 「研修オリエンテーションとアイスブレイキング」 6/13 13:00-14:08

1. 主催者あいさつ/スタッフ紹介など 13:00-[15]

- ◇ JICA 中部 木村職員が開会を宣言し、続いて竹内次長が主催者を代表してあいさつし、JICA の活動、開発教育の位置づけ、研修を通じて受講者に期待することなどについて伝えた。
- ◇ JICA 中部のスタッフ、各県市の国際協力推進員、NIED のスタッフがそれぞれ自己紹介を行った。

2. 1年間の研修の流れとポイント紹介 13:15-[16]

- ◇ JICA 古藪調整員が2つの研修の位置づけ、目的・内容などについて説明した。
- ◇ 本研修の本旨である開発教育・国際理解教育の概念、本研修の参加型での進め方についてファシリテーターが説明し、確認した。



3. アイスブレイキング～参加者リサーチ/バースデイラインアップ 13:31-[19]

- ◇ ファシリテーターが出す質問に対して、会場を立ち歩き同じ回答の人を探してグループ(仲間)になった。その後、仲間の種類を全体で確認した。
 - ・活動県(愛知・岐阜・三重・静岡)
 - ・所属区分(小学校、中学校、高校、特別支援学校、その他)
 - ・関心のあるテーマ(貧困、環境、教育、平和、共生)
 - ・開発教育・国際理解教育・参加型に関心を持ち始めてからの年数
(1～3年:60%、4～10年:30%、11年以上:10%)
- ◇ 言葉を使わずに、誕生日順(月日ではなく日)に輪になるように並んだ。1日の人から自分の誕生日を発表し順に並ぶことができたか確認した。
- ◇ ファシリテーターが1～10までの番号を振り、同じ番号の人同士でグループになり、指定のテーブルに着席した。
- ◇ ファシリテーターが、ここにいても安心して居られるような参加のためのウォーミングアップであるアイスブレイキングの趣旨について説明した。



4. 学び合う仲間と知り合おう～名刺で自己紹介 13:50-[18]

- ◇ 自分のことを紹介するための3つのキーワードを各自考え、A4用紙（名刺）に書いた。
- ◇ 名刺の内容を、呼ばれたい名前の五十音順にグループで伝えあった（1人1分30秒間）。
- ◇ ファシリテーターコメント…参加型は対等な立場で大切なテーマについて考えを深め合う場である。対等な関係で楽しく自由に学びあうために、参加者同士が多様な視点からお互いのことを知りあうことを大切にしている。人は多面的にできている。自己紹介を3つの視点から考えることは、自分を多角的にふりかえることでもある。多様な視点から自分をふりかえり他者と出会うことで、自分や他者への関心が高まり自己理解と他者理解が進み関係性が深まることを期待する。今後もグループ替えごとに様々なお題で自己紹介を行う。

● セッション2 「人と世界の多様性と同一性～気づきのアクティビティ」 6/13 14:08-17:10

1. 本研修のねらい・内容の確認 14:08-[7]

- ◇ レジュメをもとに、研修全体の流れ、各回の概要、第1回のねらいについてファシリテーターが説明した。
- ◇ 開発教育、国際理解教育のどちらになじみがあるか？挙手アンケートを行った（前者10%、後者90%）。
- ◇ 開発教育・国際理解教育について、ファシリテーターが以下の板書を基に説明した。

<開発教育・国際理解教育とは>
 人権、環境、開発、共生、平和など人類共通の課題を理解し、課題解決しながら、よりよい未来を共に築く力を育む教育である。開発教育は外務省、国際理解教育は文科省が使っているが、同じことをめざした教育である。

2. 研修参加の目的・期待と自分が貢献できること 14:15-[6]

- ◇ 研修に参加した目的や期待すること、研修に対して自分が貢献できることをグループで紹介しあった。

3. プログラム「世界の仲間と友だちになろう」<テーマ：子ども>

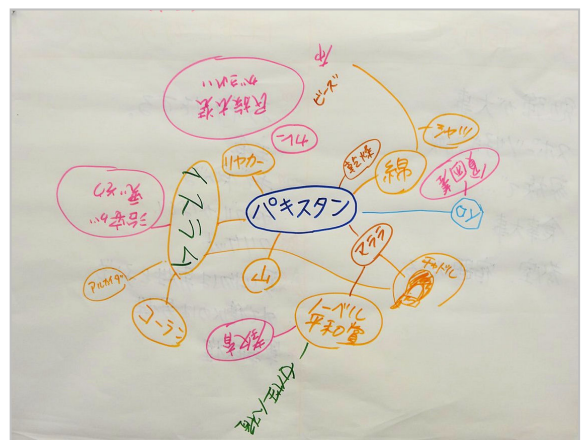
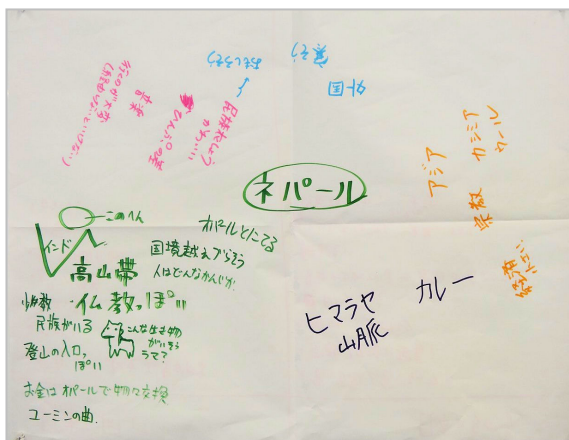
フォトランゲージ/この地球上に居合わせている仲間を知ることから始めよう-----

3-1. 「〇〇国と言えば？」ブレインストーミング 14:21-[9]

- ◇ 1グループ1カ国を担当し、グループ内で、その国について思い浮かぶことを、ブレインストーミングで半模造紙に書き出した。
- ◇ ファシリテーターコメント…ブレインストーミングとは直訳すると「脳の中の嵐」。自由な発想でアイデアを出し合う方法で、次のルールがある。①質より量、②否定はしない、③結合と発展、④斬新なアイデア、⑤みんなは応援団。



【「〇〇国と言えば？」のブレインストーミングの成果例】



3-2. 担当国の概要と子どもの暮らしの確認 14:30-[12]

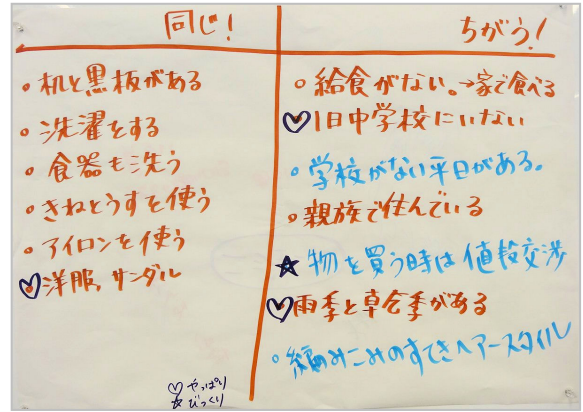
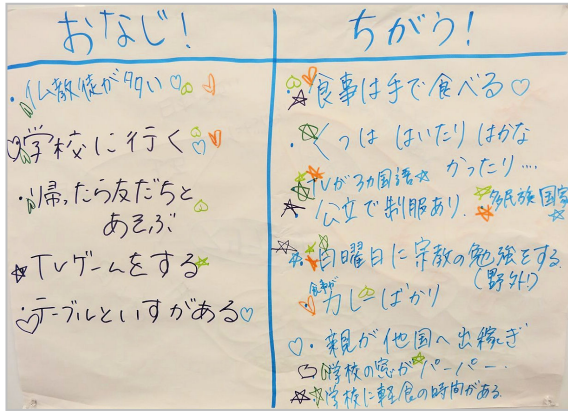
- ◇ グループ内で、10カ国のうち担当した1カ国の紹介資料を読み、その概要を確認した。
- ◇ また、担当した国における子どもの暮らしがわかる5枚の写真とその解説を、グループ内で確認した。

3-3. 世界の子どもの暮らしと日本との対比 14:42-[10]

- ◇ 担当した国における子どもの暮らしについて、日本と同じだと思ったところ、日本と違うと思ったところを、グループ内で半模造紙に対比表で書き出した。
- ◇ グループ内で、対比表に出したアイデアについて、担当国についてブレーストリングで出したイメージと比べて、やっぱりそうだったと思うものには♡印、びっくりしたと思うことには★印をつけた。



【「日本と同じ/違う」の対比表の成果例】

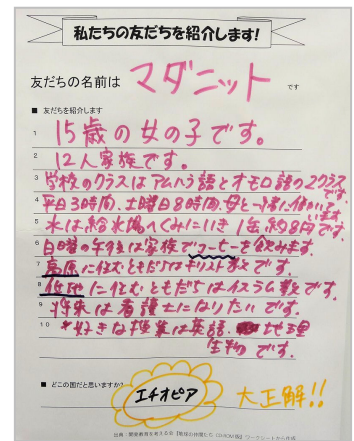


3-4. 担当国の子どもについての紹介文の作成 14:52-[6]

- ◇ 担当した国の子どもについて、他のグループで紹介する文（国名が直接わかる内容はNG）を10個作り、友だち紹介シートに記入した。

3-5. 紹介文から子どもの暮らしを想像しよう 14:58-[9]

- ◇ 友だち紹介シートを2つ隣のグループから受け取り、その情報をもとにその子どもの暮らしを想像し、グループで協力して模造紙にその絵を描いた。
- ◇ ファシリテーターが読み上げた10カ国のうち、どこの国の子どもだと思うか想像した。



【友だち紹介シートから想像した子どもの暮らしの成果例】



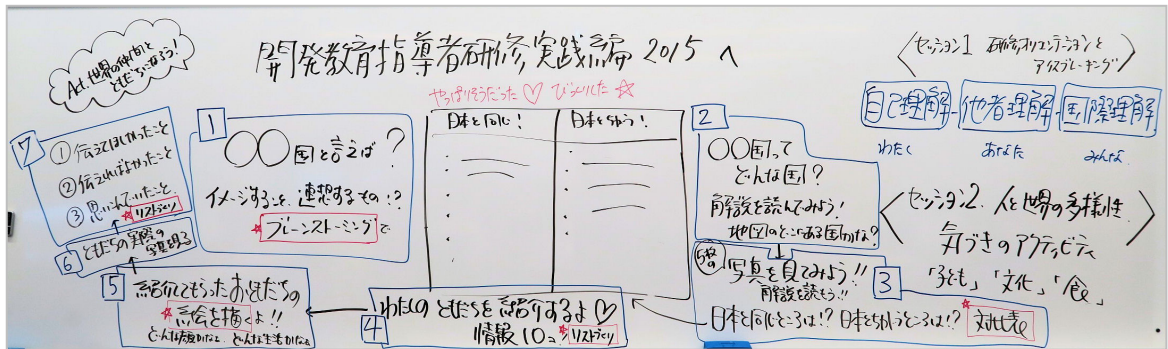
3-6. 伝えてほしかったこと/伝えればよかったこと/思い込んでいたこと 15:07-[13]

- ◇ 友だち紹介シートの基となった5枚の写真と解説を受け取り、自分たちが描いた絵と比較したうえで、「①伝えて欲しかったこと」、「②伝えればよかったこと」、「③思い込んでいたこと」についてグループ内でふりかえり、A4用紙に書いた。
- ◇ 5枚の写真と解説、友だち紹介シート、A4用紙に書き出した3つのふりかえりを、当初担当したグループが受け取り、確認した。

【思い込んでいたことの成果例】

- ◇ 女の人=家事労働と思っていた
- ◇ コーヒーは輸出だけで自分たちは飲まないと思っていた
- ◇ 食事の仕方、ご飯の盛り付け方、カレーは手で食べる、祈り方
- ◇ 貧しい国だ（思っていたより豊か）、家がポロい、道が土（未舗装）、近代的な建物（学校・洗濯屋）
- ◇ アジアっぽい、服装（ボンチョ・帽子・三つ編み・ソバカス）、服の色
- ◇ サッカー=ブラジル、お祭り=ブラジル、豆=ブラジル

◇ ファシリテーターが、小学校高学年から始められるプログラム「世界の仲間と友だちになろう」の流れについて説明した（以下板書参照）。



3-7. プログラムのふりかえり 15:20-[7]

◇ プログラム「世界の仲間と友だちになろう」を通して、気づいたこと、感じたこと、わかったことを、各自 A4 用紙に書き出し、グループ内で発表しあった。

- 休憩 - 15:27-[15]

4. グループ替え、一言自己紹介 15:42-[8]

- ◇ じゃんけんで勝った2人、負けた2人が前後のグループに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ 本名頭文字の五十音順で「〇〇な誰々です」という自己紹介を行った。
- ◇ ファシリテーターコメント…国際理解教育には大別して「気づき」のアクティビティと「築き」のアクティビティがある。「気づき」とは、単に知るだけではなく、内発的に発見し自分のこととしてわかること。「築き」は、気づきを行動へとつなぐための学びである。第1回の研修は「気づき」のアクティビティにフォーカスしている。

5. プログラム「異文化を身近に感じよう」<テーマ：文化>

クイズを通して他国を知ろう。他国を通して自国を知ろう。ちがいを楽しもう！-----

5-1. ワールドクイズ 15:50-[25]

- ◇ 10 カ国 20 問のクイズをグループで協力して回答を考えた。
- ◇ 解答を受け取り、答え合わせを行い、全体で正解数を発表した。18 問正解が最多であった。
- ◇ ファシリテーターコメント…国際理解教育は、自己理解、他者理解、国際理解の3つの領域を行き来しながら自分や他者や社会への理解を深めようという教育である。何かを理解するためには関心を持つことが必要となる。関心は、誰かから教えられるのではなく、「問われ」自ら考えてみることを通して喚起される。「クイズ」は、問いに対する答えを考えることで関心を持ってもらうための1つの手法である。



5-2. 日本を伝えるクイズ 16:15-[10]

- ◇ 日本や自分の住む地域のことを知ってもらうためのクイズを各自で作成した。
- ◇ グループ内でクイズを出し合い、解答の説明も行った。
- ◇ 良いクイズと思うものを全体で共有した。…「着物の袖は年齢や場所で長さが変わる？ウソ・ホント」→ホント

6. プログラム「地球の食卓」〈テーマ：食〉

世界の食の多様性を味わおう、日本の食の現状をふりかえろう！-----

6-1. わたしの食をふりかえる 16:25-[10]

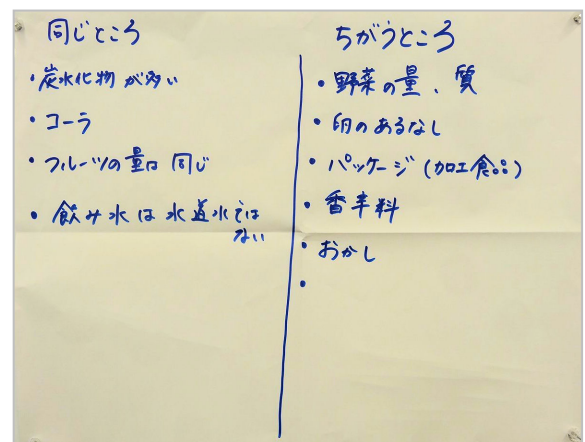
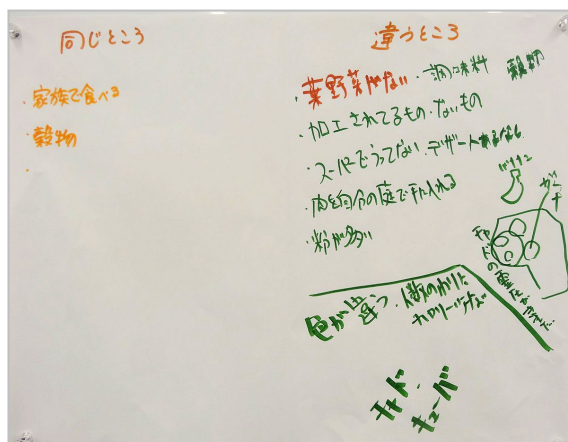
- ◇ 好きな食べ物トップ5および子どもの頃と今と比べた食生活の変化を、グループ内で紹介しあった。
- ◇ 全体で何人かに食生活の変化を聞いた。

6-2. フォトランゲージ・世界の食の多様性 16:35-[10]

- ◇ 『地球の食卓』写真集より2カ国の家族全員と1週間の食材を並べた写真を見て、どこの国の食卓か想像した。
- ◇ 2カ国の食の写真と比較し、2カ国の共通点と相違点には何があるかグループ内で話し合い、半模造紙に対比表形式でまとめた。
- ◇ 2カ国の解説が書かれた資料をもとに、国名と食の概要を確認した。



【地球の食卓2カ国の共通点と相違点の成果例】



6-3. わかったこと、気づいたこと 16:45-[6]

- ◇ 比較してみて、わかったこと、気づいたことを全体で3グループが発表した。

6-4. 食をめぐるキャッチコピー 16:51-[13]

- ◇ 他のグループの「地球の食卓」の写真や対比表を見てまわりながら、「世界の食は〇〇だ」、「世界の食は〇〇化している」など、現在の世界の食の特徴を表すキャッチコピーを各自考えた。
- ◇ グループ内で各自が考えたキャッチコピーを紹介しあい、A4用紙に書き留めた。
- ◇ 全体でキャッチコピーをポップコーン方式により発表した。

【食をめぐるキャッチコピーの発表例】

二極化	フランチャイズ化	移行	多様化	家族団らん	同一化	問題深刻化	ゴミ化
箱化	ペットボトル化	加工	味覚の追求化	残さず食べられる化	貧富の差を映す	昔と今	

- ◇ 資料「食をめぐるキーワード」をもとに、食に関する様々なテーマ、課題について確認した。

7. 事務連絡 17:04-[6]

- ◇ 記録の提供、肖像権、宿泊、懇親会について連絡する。

★ 17:10 終了

● セッション3 「気づき・考え・行動する～築きのアクティビティ」 6/14 10:00-14:19

1. あいさつ、グループ作り 10:00-[5]

- ◇ JICA 中部 木村職員が、2日目開始にあたってのあいさつを行った。
- ◇ 10種類のキャンディーをランダムに配り、同じ味のキャンディーの人同士でグループを作り、好きなテーブルへ着席した。

2. アイスブレイキング「チェンジスリー」 10:05-[12]

- ◇ ペアになり、次の手順で変えた3カ所を当てるゲームを行った。①変える方と当てる方を決める→②当てる方は現状の相手の服装などを確認する→③当てる方は後ろを向き、変える方は30秒間で3カ所変える→④再び向き合い当てる方が変わった3カ所を当てる→⑤交代して同じことを行う。
- ◇ 3つとも当てられた人を全体で挙手により人数を確認した。



3. 1日目のふりかえり 10:17-[14]

- ◇ 1日目に行ったことの流れと内容をファシリテーターが全体で説明した。
- ◇ 1日目で一番印象に残ったこと、気づいたこと、わかったことを2つ、一番早く起きた人が最初にグループ内で伝え、次の人を指名する方式で全員が伝えあった。1日目欠席の人は、研修への期待や自分が貢献できることを伝えた。

4. 開発教育・国際理解教育が扱う3つの柱ミニレクチャー 10:31-[2]

- ◇ 開発教育・国際理解教育が扱う3つの柱についてファシリテーターが説明した。
 - ① 多様な人、多様な国と肯定的に出会う。
 - ② 人や世界の多様性と同一性を理解し、つながりに気づく。
 - ③ 人類共通の課題について、共に考え共に越える。

5. プログラム「社会をふりかえる・わたしをふりかえる」-----

5-1. 日本の課題・世界の課題 10:33-[37]

- ◇ 自分が生きる地域社会、地球社会に関して問題に感じていることを、各自1項目1枚の付せん紙に7枚以上書いた。
- ◇ これから行うカード式整理法（KJ法）についてファシリテーターが解説した。
- ◇ グループ内で、横造紙に十字のXY軸を書き、縦軸を「地域-地球」、横軸を「人権-環境」として、各自の付せん紙を、地域×人権、地球×人権、地域×環境、地球×環境の4つパートに分けつつ、カード式整理法により分類・整理を行った。

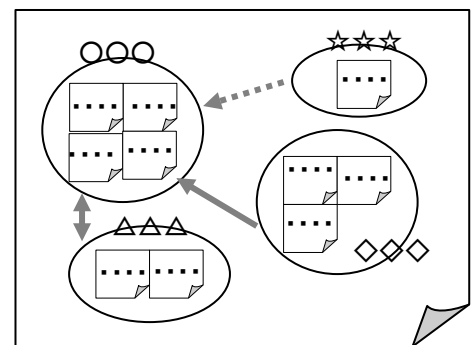


<カード式整理法（KJ法）の進め方> KJ…考案した文化人類学者の川喜田二郎の名前のイニシャル

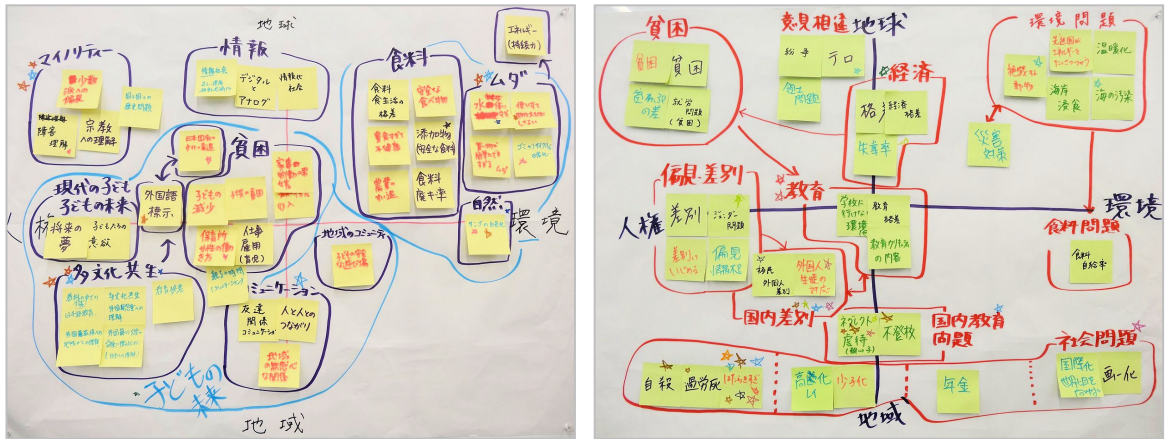
- ① 1人目が付せん紙に書いたことを読み上げ横造紙に貼る。
- ② 同じようなことを書いた人は、並べて貼る。
- ③ 以降、順に読み上げ、同様に並べて貼る作業を全員の付せん紙がなくなるまで行う。
- ④ 同じような付せん紙を線で括り、タイトルを書く。

<まとめるうえでの約束>

- ・ 付せん紙に書いたことを説明しないが、質問はOK。
- ・ 何でも一緒にせず8～10カテゴリーにする。
- ・ 1人が一気に出示してしまわず順番に出しあう。
- ・ 1人で黙々とせずグループで協力して行う。



【自分が生きる地域社会、地球社会に関して問題に感じていることカード式整理の成果例】



5-2. 気づいたこと・わかったこと・言えること 11:10-[18]

- ◇ この作業を通して、気づいたこと、わかったことを、グループ内で話し合っって半模造紙に書いた。
- ◇ 4グループ分のカード式整理法の模造紙と気づいたことなどの半模造紙をセットで回し読みして、他のグループの成果を共有した。その際、なるほど！いいね！と思ったアイデアに☆印をつけた。
- ◇ 自分たちの成果模造紙を戻し、どこに☆印が付いたか確認した。

【気づいたこと・わかったこと・言えることの成果例分類】

- ◇ つながり…すべてはつながっている／教育 - 経済 - 貧困／日本の問題＝世界の問題／「平和」と個人の「心のゆとり」は関連している／人権の課題→環境の課題／情報化社会と平和は強い結びつき／世界のことばかり目を向けていて日本（足元）の問題が抜けている／カテゴリー化の難しさ→複雑に絡んでいる
- ◇ 自分と課題とのつながり…自分が関わる問題多い／中心は自分たちの心で無関心を変える必要
- ◇ 環境…環境については知らないことが多い／環境問題は地球レベルに／過剰な摂取→環境問題へ
- ◇ 情報化社会…デジタル（特にスマホ）は世界に広がりそれによる課題増／携帯・ラインと犯罪が関連
- ◇ 人権…人権に関わる問題が多い／人権の問題には身近で細かく気づける／人権については感じやすい
- ◇ その他の課題…子どもの未来にかかわること⇔人とのかわりに対して希薄化→子どもの貧困を救えない／日本は宗教のことは無関心・思想として少ない／「格差」というキーワードが見える（食料／生活など）／言ったもん勝ちの世界になっていく…
- ◇ よりよい未来のためにできること…“生きるため”の問題に目がいきがちだが教育を一番大切にしたい／平和は大切／解決に向けてすぐ動けるものは…！？
- ◇ ワークを通しての気づき…自分で気づかない意見が見える／見る人によって視点が違い多くの視点が得られる／興味のあるテーマのかたよりがある／KJ法と二次軸法の同時作業は難しい

- ◇ ファシリテーターコメント…グループで協力して考えること、他グループの成果物を回し読みして共有することの意義は、1人では考えつかなかったことに気づくことができること。一人ひとりが持っているもの・知っていることを出し合うことで、誰もがお互いの学びに貢献することができるのが参加型の良さである。共感した模造紙上のアイデアに☆印で肯定的に反応してもらうことは喜びになる。カード式整理法でまとめて終わりではなく、そこからわかること・言えることは何か？と問いかけることで、参加者の気づきを引き出し学びが深まる。言葉にすることで文字化することで内発的な気づきは意識化され、行動への動機づけとなる。

5-3 個人の感想の共有 11:28-[4]

- ◇ このプログラムを通して感じたことを、グループ内で紹介しあった。

6 グループ替えと一言自己紹介 11:32-[5]

- ◇ ファシリテーターが1～10までの番号を振り、同じ番号の人同士でグループになり、指定のテーブルに着席した。
- ◇ グループ内で「実は○○な誰々です」というお題で自己紹介を行った。

7. プログラム「持続可能な共通の未来 ビジョンを描こう」-----

7-1. 持続可能な未来についてのミニレクチャー 11:37-[4]

- ◇ 持続可能な未来と開発教育・国際理解教育について、ファシリテーターが説明した。

「私たちは課題のある社会に生きている。課題を放置することは、誰かの苦しみを放置すること。また、巡り巡ってその問題による影響が自分にも及ぶ可能性がある。変えたいことがある！ということがこの教育の出発点である。

「課題のある社会」を「よりよい未来」にしていくためには、「一人ひとりの行動変容」が必要である。開発教育・国際理解教育は、私たちの地域や地球の課題を知り、問題に気づき、自ら考え問題を解決するための行動ができる人を育てる教育である。また、開発教育・国際理解教育は、課題解決だけでなく、よりよい持続可能な共通の未来を描き、それを実現するための行動や選択ができるような価値観を育てていく教育である。価値観が変われば行動が変わる。」

7-2. よりよい未来のビジョン～ブレインストーミング 11:41-[19]

- ◇ 私たちが望む「よりよい未来」はどんな社会であるか、どんなことが実現されている社会なのか、それらの要素をグループで派生的なブレインストーミングにより模造紙に書き出した。
- ◇ ギャラリー方式（他のグループの模造紙を自由に見て回る）で他のグループのアイデアを共有した。その際、なるほど！いいね！と思ったアイデアに☆印を付け、自分のグループで共有したいと思ったアイデアを付せん紙に書き留めた。
- ◇ 共有したいアイデアを書いた付せん紙を、自分のグループで伝え合い、模造紙に貼り付けた。



【「よりよい未来のビジョン」のブレインストーミングの成果例】



7-3. よりよい未来のビジョン～7箇条づくり 12:00-[15]

- ◇ 模造紙に出されたアイデアのうち、自分にとって大事だと思うもの3つを選び、♡印をつけた。
- ◇ ♡印のアイデアをもとに、すべての人にとってのよりよい未来のビジョンを7つにまとめるための話し合いをグループで行い、模造紙に具体的かつ否定形ではない7つの文章にまとめた。
- ◇ 3つのグループが7箇条を全体で読み上げ共有した。
- ◇ ファシリテーターコメント…○箇条にまとめることは、実現したい未来の目標を持つということ。作った○箇条は、望むよりよい未来が達成できているか推し量る指標となる。めざしたい社会がどんな姿なのか、具体的に描けていなければ、そこに到達することはできない。誰かがやってくれるから、と思っていると誰もやってくれないという結果になることもある。人任せにしていると、自分の思うこととは違う方向に行ってしまうこともある。一人ひとりが課題解決やよりよい未来作りに関わるのが大切であり、そのために、関わる力を育てることが重要となる。



【 よりよい未来のビジョン7箇条の成果 】

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| ① 心の余裕がある | ① 自然と共に暮らせる社会 |
| ② おいしいものが安心して食べられる | ② 誰もが学校で楽しく学ぶ社会 |
| ③ 充実した時間を過ごすことができる | ③ 自分のための時間をもてる社会 |
| ④ 健康に過ごすことができる | ④ 家族と共に過ごせる社会 |
| ⑤ 季節を感じるができる | ⑤ みんなの目が輝いている社会 |
| ⑥ お互いが認め合える | ⑥ 自分なりの豊かさをもてる社会 |
| ⑦ シンプル・イズ・ベスト | ⑦ 自由に国境を超える社会 |
| ① 仕事も遊びも楽しめる | ① 健康な長寿 |
| ② 心身ともに健康でいられる | ② 国境を越えたコミュニケーション |
| ③ スポーツで人とつながれる | ③ ワークライフバランスの充実 |
| ④ みんながおいしく食べられる | ④ 夢をもてる |
| ⑤ 笑顔があふれる | ⑤ 体によい食生活が送れる |
| ⑥ ふと「平和だなあ～」と声もれる | ⑥ 心の豊かさ |
| ⑦ ふと「幸せだなあ～」と声もれる | ⑦ 共生できるコミュニティー |
| ① 1人1人が自己実現できる | ① 誰もが夢を持てる |
| ② みんなが笑顔で暮らせる | ② 安心して心のゆとりが持てる |
| ③ 世界みんながごはんを食べて幸せを感じられる | ③ 笑顔があふれる |
| ④ 健康で笑いのある家族 | ④ 健康でスポーツを楽しめる |
| ⑤ 自然と共に生きる | ⑤ 誰もが教育を受けられる |
| ⑥ 世界みんなが共に課題を乗り越え、生きていける | ⑥ 誰にも優しい |
| ⑦ 心と時間にゆとりのあるライフスタイル | ⑦ みんなが生きがいを持てる |
| ① 家族・友だち・仲間など人とのつながりがある社会 | ① 誰もが夢を持って自分らしく生きられる |
| ② 衣食住の安全が確保されている社会 | ② 誰もが教育を受けられる |
| ③ 福祉が充実している社会 | ③ 誰もが優しさを持って認め合える |
| ④ みんなが笑顔で過ごせる社会 | ④ 誰もが大好きが家族と友人といられる |
| ⑤ 男女平等で子育てしやすく、ワークライフバランスがとれている社会 | ⑤ 誰もが美しい自然に囲まれ、安全な食を手に入られる |
| ⑥ 将来に貧富の差に関係なく希望が持てる社会 | ⑥ 誰もが平和に暮らせる |
| ⑦ お金に支配されず、分け合う優しさ、助け合う優しさがある社会 | ⑦ 誰もが笑顔でいられる |
| ① 「助けて」といえる人と人とのつながりがある社会 | ① みんなが笑顔でいられる |
| ② ゆっくり寝れるスローな社会 | ② 定時で帰れる |
| ③ みんなが笑顔で生きがいのある社会 | ③ それぞれが認められる |
| ④ ようばりすぎず、足を知る社会 | ④ 安心して暮らせる |
| ⑤ 家族とずっと一緒にいられる社会 | ⑤ 趣味・生きがいをもてる |
| ⑥ 誰にでも思いやりがある平和な社会 | ⑥ 子どもの目がキラキラしている |
| ⑦ 衣食住が確保されている社会 | ⑦ 日本も世界もみんな好き |

8. グループ替えと一言自己紹介 13:15-[10]

- ◇ これまで同じグループになったことのない人を探して4～5人集まり、テーブルに着席した。
- ◇ グループ内で「今オススメの逸品（本、食べ物、音楽、映画、人など）」というお題で自己紹介を行った。

9. 2日目午前中のふりかえり 13:25-[2]

- ◇ 2日目午前中に行ったことの概要をファシリテーターが全体で説明した。
- ◇ 板書をもとに、開発教育、国際理解教育、ESD（持続可能な開発のための教育）のポイントを説明した。

課題のある社会の課題解決+私たちが望むよりよい未来のビジョン達成
↓ のために必要なもの
大切な価値観、役立つスキル、必要な情報

10. 食をテーマにした「気づきから行動へ」のプログラム体験 -----

10-1. 食に関するデータ 13:27-[6]

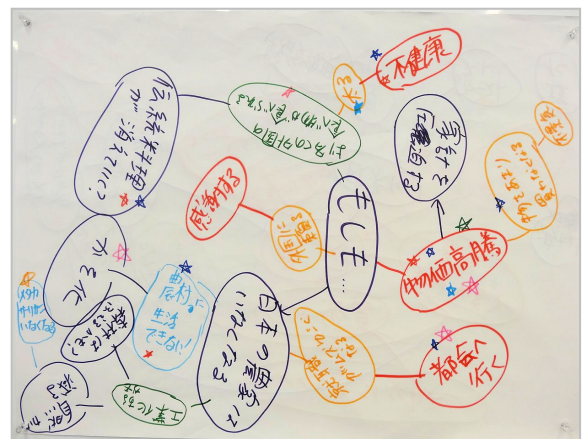
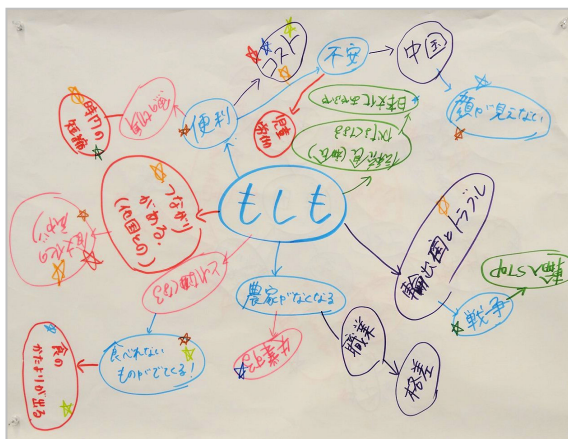
- ◇ 日本や他国の食糧自給率、料理メニュー別の輸入依存度、日本の食糧自給率の変遷、日本での食料の廃棄状況などに関するデータ資料を各自読み、印象に残った箇所の下線を引いた。
- ◇ 印象に残った箇所をグループ内で紹介しあった（1人1分間）。



10-2. 食品の輸入依存度が増える影響 13:40-[11]

- ◇ もしも食品の輸入依存度が増えていったら、どんなことにつながっていくのか、グループで内派的に考え模造紙に書き出し、最後に自分にも影響が及ぶと思うものに☆印を付けた。
- ◇ 3グループ分の模造紙を回し読みし、他のグループのアイデアを共有した。アイデアのうち自分にも影響が及ぶと思うものに☆印を付けた。
- ◇ 自分にも影響が及ぶと思ったアイデアは何だったか全体で何人かに聞いた。
- ◇ ファシリテーターコメント…その問題は自分には関係のないと思えば、問題解決に関わろうとは思わない。その問題によって自分も影響を受けることや、その問題の原因は自分ともつながっていることに気づくことで、他人事だと思っていたことは自分事に近づく。

【 食品の輸入依存度が増える影響の派生図の成果例 】



10-3. 食品の輸入依存度が増える原因 13:51-[11]

- ◇ 食品の輸入依存度が増える原因は何か、その原因の原因は何かというように、グループ内で因果関係的に考え模造紙に書き出し、最後に自分も関わっていると思う原因に☆印を付けた。
- ◇ 3グループ分の模造紙を回し読みし、他のグループのアイデアを共有した。アイデアのうち自分も関わっていると思う原因に☆印を付けた。



【 食品の輸入依存度が増える原因の派生図の成果例 】



10-4. 持続可能な食の未来のために 14:02-[11]

- ◇ 食にまつわる情報、自分たちで考えた食品の輸入依存度が増える影響と原因を踏まえて、持続可能な食の未来のために、大切なこと、役立つこと、できることを、グループ内で考え、A4用紙に書いた。
- ◇ グループから1つずつ、前のグループと重複しないように全体で発表した。

【 持続可能な食の未来のために、大切なこと・役立つこと・できること成果例分類 】

- ◇ ゆとりを持って暮らす…家族で食について時間をかける／自分で作る／手間を省かない／家庭菜園をする／足るを知る
- ◇ 農業・農家を知り、伝え、広める…農家の良さを伝える／農業のイメージを向上させる／農業に関心をもつ／田植えなどを体験する／「かっこいい農家」「農家のコミュニティ」／教育の中で農業・食育についてとりあげる／本物の味を知る／収穫・栽培の楽しさを知る
- ◇ 農業・農家を支援する仕組みを作る…もうかる農業のしくみを作る／農産物のブランド化／農業の収入向上／農業ブームを起こす
- ◇ 地産地消・安心安全…国産品を選ぶ／地元でおいしいものを知る／季節のものを食べる／値段く安心安全／食=安全「顔のみえる農業」／健康を考える
- ◇ 食べものを大切にする…食べ残さない／食べ物（関わる人）に感謝する／食べられる量の購入
- ◇ 日本食を見直す…外国に関心を持ち、日本食の良さを再認識する／和食への興味を持つ

10-5. 自分にできること 14:13-[6]

- ◇ 持続可能な食の未来のために、自分にできることを3つ考え、そのうちの1つをグループ内で紹介しあった。
- ◇ ファシリテーターコメント…個人でできることだけでなく、仲間とだったらできること、行政に行きたくらいなことなど、具体的な行動の幅を広げて考えることもできる。

● セッション4 「開発教育・国際理解教育の目的・内容・進め方」 6/14 14:19-15:05

1. 参加型の可能性 14:19-[13]

- ◇ 参加型で進めてきた本研修を体験してみてわかったこと、体験したからこそ得られたものを、グループ内で話し合い、半模造紙に書き出した。
- ◇ 3グループ分の模造紙を回し読みし、他のグループのアイデアを共有した。その際、なるほど！いいね！と思ったアイデアに☆印を付けた。
- ◇ ファシリテーターコメント…この研修でめざす開発教育・国際理解教育の中核的指導者は、「参加型」という学び方の持つ可能性を自らの経験知として理解している必要がある。参加型は万能ではなく、メリット、デメリットがあることを理解し、メリットは最大限活かし、デメリットを可能な限り越える手立てを考えることが期待される。



【参加型の可能性の成果例分類】

- ◇ 安心できる場となる…否定されないから安心／自分が大切にされていることがわかる／自分の意見を発せられる・聞いてもらえる／誰でも平等に自己主張できる／自然に話せる雰囲気ができる／自己肯定感がもてる／みんなでやるから不安がない／強制されない／発言の機会がある／違う意見を受け入れようとする／首を“縦”に振る（×横）／どんな形でも参加できる／他者を大事にできる
- ◇ 楽しい・面白い…ずっと考えるから眠気を忘れる／時間があつという間／一緒にやる人や自分のタイミングによって、得られるものが違って楽しい／聞くのも、聞いてもらうのも楽しい／やった感がある／気づく楽しさ「そうか!」「なるほど!」／おもしろい、飽きない／楽しい（勉強している気はしない→でも気づいて考えて発言している）／元気になれる
- ◇ 自分を見つめ・考えられる…自分の考えを振り返ることができた／人の意見から自分の意見を深めることができた／すべて自分に関わっている／自分が変われば変わっていく／自己の傾向がわかる（他人の意見と比べることで）／自分の意見が補強される／自分にも責任があると感じる／自分で主体的に考える／より自分の糧になる／自分の頭を使っている／必ず自分も考える機会がある／頭の中の情報が整理される／聞くだけではなく、自分で考え、感じ、気付いたから深いところで学べて、充実している／自分の無意識な思い込みに気づいた／言葉にして伝えることで考えがまとまる
- ◇ 多様な意見を知ることで広がる…個人で考えずみんなで考えるためいろんな意見を知ることができる／世代によって考え方が違う／色分けされ、みんなの意見が分かりやすい／ほかのグループと交換することにより、意見が広がる／多面的に物事を見られる／他の人の考えから新たな考えが生まれる／様々な意見を知ることができる／知識を持ち寄って考えられる／考えに広がりができる／新しい発見がいっぱい／意見が深まる／つながりを感じられる
- ◇ 達成感がある…達成感をえられる／達成感がモチベーションにつながる／意見を言うなくても達成感、充実感がある／前向きになる／積極的に考えて関わろうとする／ポジティブシンキングできる
- ◇ 仲間ができる…会ったばかりでもすぐ仲良くなれる／相手のことを知れる／人脈が広がる／一体感・団結感がある／友達が増える／日常では付き合いのない人と話せて意見交換できて楽しい
- ◇ 講義型と比較してメリットがある…なんでも暗記勉強法からの脱却／視覚の情報からのイメージ／作業とセット→自分の確認、あきない、集中／ステップをふむことでわかりやすい→学力差があってもわかりやすそう／成果が残る→やるべき事が明確／意見を共有できる／考えたことが消えないで形に残る／答えをみつけなくて議論ができる（持続可能な議論）／正解・ゴールがないので限りなく高まる

2. 参加型で進める開発教育・国際理解教育 ミニレクチャー 14:32-[3]

- ◇ 配付した開発教育・国際理解教育、参加型に関する資料のポイントをファシリテーターが説明した。

3. JICA TIME 14:35-[25]

- ◇ JICA 中部 古藪調整員が、開発協力大綱における開発教育の位置づけ、JICA 中部の開発教育・国際理解教育の支援の内容とその活用方法について説明した。
- ◇ 愛知県、三重県、岐阜県で行う開発教育・国際理解教育に関するイベントを担当の国際協力推進員が紹介した。



4. 事務連絡 15:00-[5]

- ◇ 肖像権承諾書、資料の訂正、Eメール連絡体制、メーリングリストの開設、次回からの懇親会、次回宿泊について、事務局が伝えた。

★ 15:05 終了